



渋谷登美子 議員

出生率をあげるには
3歳児の居場所が
必要だね

問 コロナ禍で出産をためらう人が増え、妊娠届は平均11%減少と聞く。町の妊娠届数は。

答 子育て支援課長 令和2年度の11月25日時点で46件、昨年の同時期は51件、9%の減である。毎年9%減が続いている。

問 コロナ禍で妊娠中のカップルへの支援は。

答 子育て支援課長 通常は妊娠訪問を実施しているが、緊急事態中から現在まで妊

コロナ禍で妊娠届け出数は 前年より9%減で45件

娠訪問を中断し、電話での相談支援を行っている。相談内容は、緊急事態宣言中は産婦人科の受診も一人きりで不安という声が多くある。

再問 産後鬱の方が4人に一人というが、その把握は。

再答 子育て支援課長 訪問ができないため、こちらからの電話支援をしている。人数的にも多くないのでこまめに対応をしている。

問 次年度の保育園、町立幼稚園の希望は。

答 子育て支援課長 0歳15人、1歳40人、2歳51人、3歳58人、4歳63人、5歳65

人で292人、待機児童については微妙なところ。

答 教育委員会事務局 長 4歳児の希望は35名。

問 幼保無償化の影響はなかったということか。

答 教育委員会事務局 長 例年33~34%の希望がある。町立幼稚園が評価されている。3歳児は居場所がない問題をどう考えるか。

再答 町長 居場所がないのではなく、各家庭によって考えが違



今年度はコロナ禍のため、個別対応にて実施。
平成30年度のプレママ・プレパパ教室の様子



藤野 和美 議員

これからはスローな
循環型社会を

問 農業は町の基幹産業であるが、担い手の高齢化や後継者不足によって厳しい状況にある。活性化のために有機農業を推進していく考えは。

答 農政課長 現在でも県の認証制度による特別栽培農産物の推進を行っている。

再問 町内には木の葉・牛ふん・鶏ふんなど、材料はある。有効利用できるか。

再答 農政課長 たい肥組合などで活用している。鶏ふんについては、飼料用米の田ん



木の葉をいれた野菜畑=R2.12.12

ぼなどでの活用を促進していく。

再問 有機農業の推進は、里山の再生や臭いの解消、農産物の価値向上、新規就農者の増加、観光とのコラボなど、一石二鳥・三鳥にもなると思うが。

再答 町長 有機農業に取り組む方を支援していく。

問 町の農業の未来は。

答 農政課長 担い手の育成や新技術の導入を推進していく。

再問 農村地域の人口は少ないが、町を象

循環型農業の推進で地域の持続化を

答 環境保全にもつながる重要な観点

徴する里山の景観が維持されているのは耕作者がいるからであり、その景観は観光にも寄与すると思うが。

再答 町長 里山の景観は素晴らしいもので、今のままで観光資源になると思う。

再問 循環型農業の推進で農村地域の持続化を図る必要があると思うが。

再答 町長 環境保全にもつながる重要な観点だ。

ウォーキング ルートの整備を

問 北部交流センターを起点としたウォーキングルートを整備する考えは。

答 企業支援課長 貴重な提案として検討していく。

自宅介護世帯 への支援を

問 コロナ禍で自宅介護世帯は苦勞を強いられているが、支援は。

答 長寿生きがい課長 「オレんじカフ」の開催や利用料助成事業などを行っている。
再答 健康いきいき課長 障がい福祉サービスを受ける方の状況変化の早期把握につとめる。